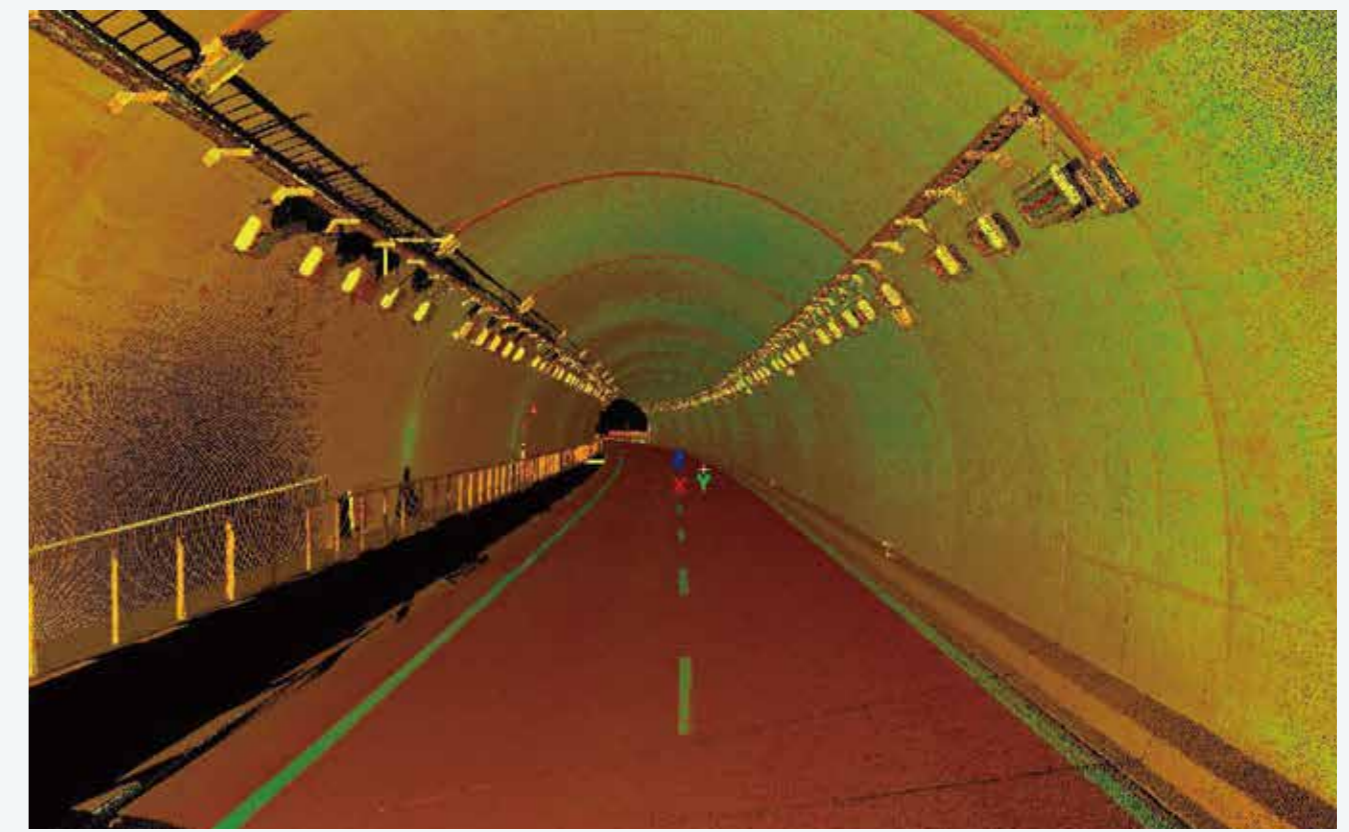


トンネル・法面の空間管理

3次元空間計測(レーザースキャナー)を用いた3D計測を行い、トンネル・法面の新しい維持管理を提案します。
 3D計測を利用することで、トンネル・法面の経年変化を立体的に確認することが可能となります。また、橋脚間距離の計測なども可能であり、維持管理の初期データ取得に最適な技術となっています。計測された点群より解析を行えば、用意に平面・縦断・横断面図が作成できます。また、現在トンネルのコンクリート剥離や浮きを、点群と写真の同時計測により、発見可能です。現場計測では、夜間の計測に対応し、危険箇所や時間的制約がある箇所等の計測にも適しています。



空間計測時の点群データ

【特徴】

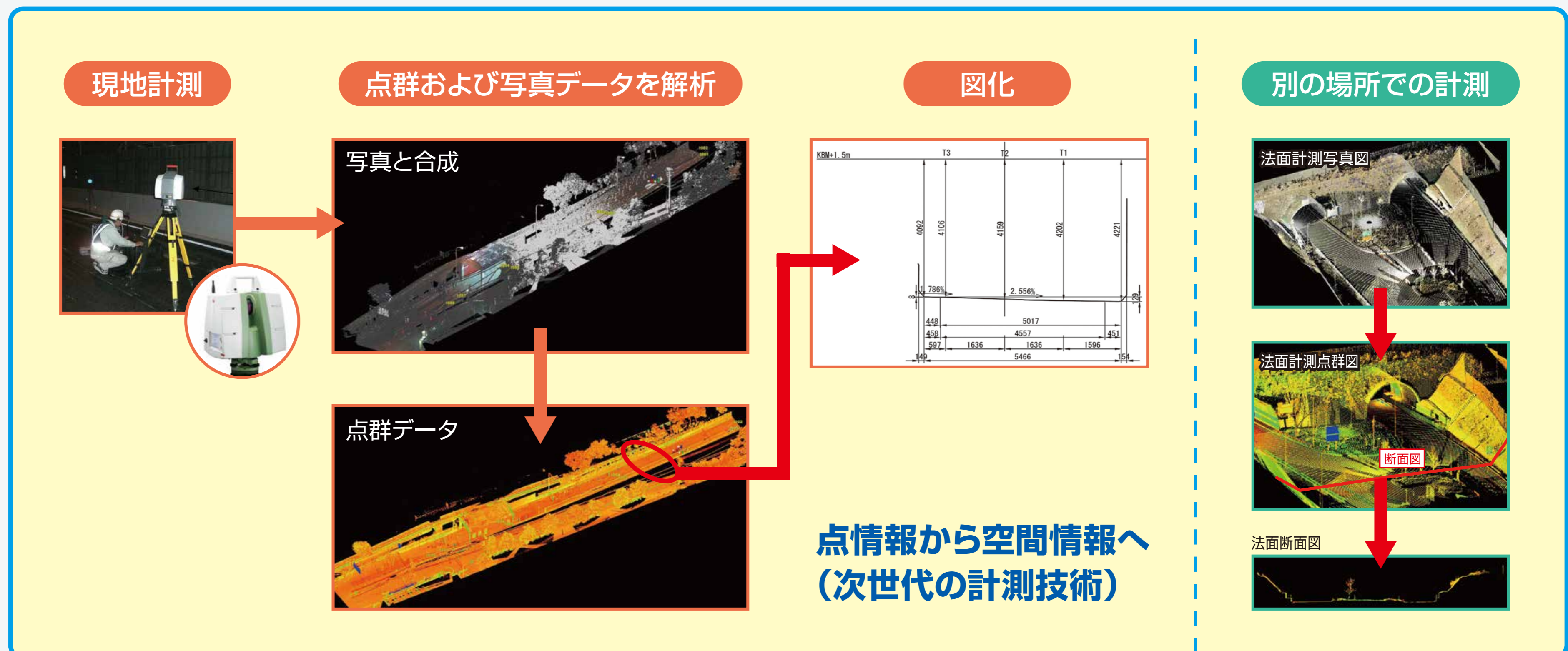
短時間で空間情報の取得が可能

経年変化を立体的に確認が可能

簡易に図面化が可能

夜間でも計測が可能

【作業方法】 現地計測→点群および写真データを解析→図化の順番で簡易に作図することが可能です。

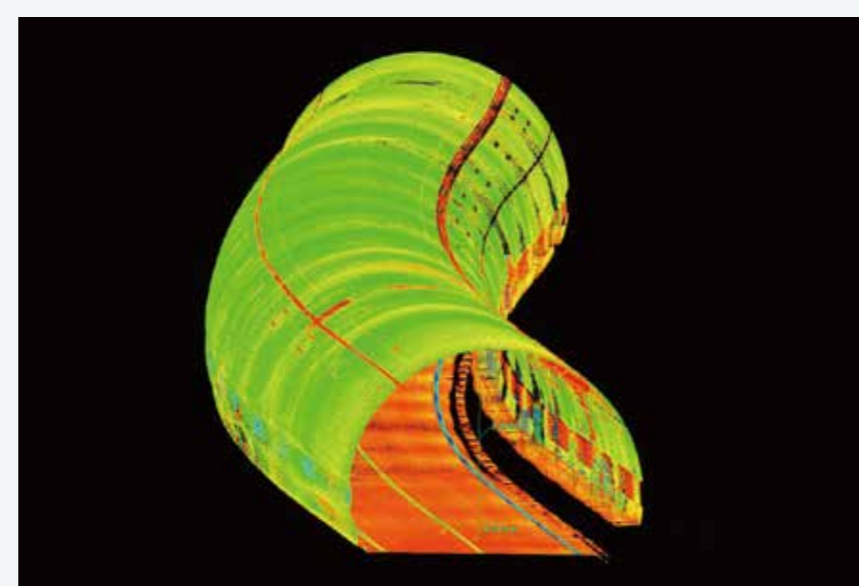


舗装の出来形管理

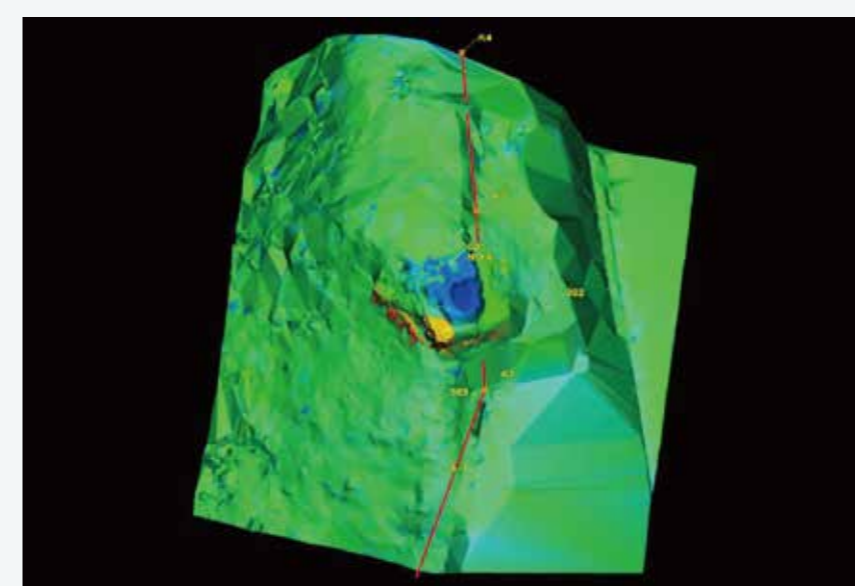
3D計測を利用することで、舗装の形状・勾配・ポットホールを3次元で把握することができ、管理するうえで必要な情報取得が可能です。また、従来の計測方法では、通行止めによる規制形式が主ですが、本計測では簡易な規制で空間情報の取得が可能です。



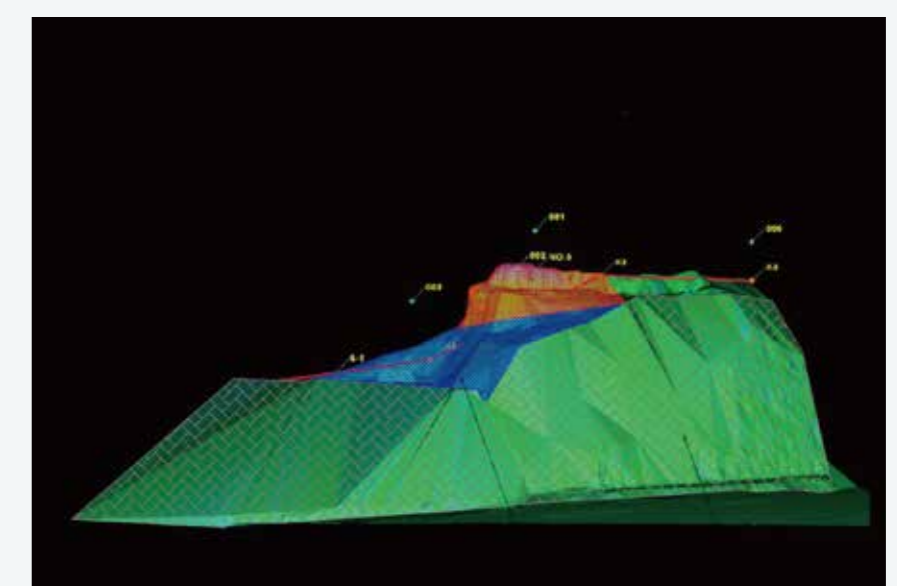
監査路上で計測(規制なし)



トンネル点群図



法面コンター図



法面コンター図

※新技術活用システム(NETIS)の「コンクリートのひび割れについて遠方から検出が可能な技術」として評価されました。